

農政の動き 2016年6月17日～6月23日

◇15年産米 5月の相対価格は前月比121円高◇

2015年産米の5月の相対取引価格（全銘柄平均）は、前月比121円高の60^キ。当たり1万3329円だったと、農林水産省が公表した。前年同期比では1438円（12%）高い。（17日）

◇農水省 HPで集落単位のデータベース公開◇

農林水産省は、農業集落単位で農林業センサスの結果や多面的機能支払交付金などの施策情報を検索できる「地域の農業を見て・知って・活かすDB（データベース）」を開発し、同省のホームページ（HP）で公開を始めた。掲載データは、農林業センサスや施策情報のほか、国勢調査や経済センサス、農業基盤情報基礎調査（区画規模別田面積や用水状況別面積）、国土数値情報（地域指定、各種施設数、駅・バス停の有無など）。森山裕農相は閣議後会見で「例えば稲の作付け割合が高い地域や家畜飼養頭羽数が多い地域の分布状況を地図上に表示して比較し、耕畜連携の可能性を実践的に検討できる」と説明。地方自治体や農業団体などに活用を呼び掛けた。（17日）

◇Jミルク 生産基盤強化へ技術普及を要請◇

Jミルクは、持続可能な産業基盤強化のための酪農乳業対策の考え方をまとめた。中長期的に乳製品の国産需給はひっ迫が予想され、輸入に依存することは困難と指摘。酪農生産基盤強化に向けて、乳用牛供用年数の延長や飼養改善技術の改善など適切な生産技術の普及強化を要請した。輸入飼料の依存度を引き下げるため、国産粗飼料やエコフィード（食料残さ飼料）の活用を含めた飼料全体の国産化推進対策の充実も求めた。政府が進める加工原料乳生産者補給金制度の見直しでは「国産生乳の需要確保と酪農の所得安定の視点を十分に踏まえた運営と財源確保が重要」と強調。指定生乳生産者団体制度の機能の維持・強化も訴えた。（17日）

◇米国南西部で熱波 アリゾナでは最高気温48度◇

米国南西部では、6月初めから断続的な熱波が発生し、アリゾナ州フェニックスでは19日の日最高気温が約48度と、同時点では1993年の統計開始以来第5位の高温を記録した。また、17～19日の日最高気温は、米国南西部のネバダ州やアリゾナ州の複数の地点で40度を超えた。気象庁は世界の異常気象速報で明らかにした。なお、米国海洋大気庁では少なくとも1週間先まで顕著な高温が続く見込みで、長期予報では、7～9月の平均気温は平年より高くなる見通しとなっている。（20日）

◇熊本地震農業分野の被害額は1062億円超◇

農林水産省は、熊本地震の農林水産被害額は1489億1千万円に上ったと公表した。農業分野は1062億2千万円で、農業用施設などの損壊が434億9千万円、農地の損壊は278億3千万円となった。共同利用施設の損壊は196億6千万円、畜舎の損壊が128億8千万円、農業用ハウスの損傷は11億1千万円などとなっている。（22日）

◇16年度生乳計画生産目標 前年度実績比1.2%増◇

中央酪農会議は、2016年度生乳計画生産目標数量の指定団体別配分数量を発表した。計画生産目標数量は、前年度実績比1.2%増の718万8914^トで、北海道は1.8%増の385万6046

ト、都府県は0.5%増の333万2868トとした。なお、新規就農枠（2万ト）は今後、申請を受け付け、指定団体に追加配分する。（23日）